

## 論文審査の要旨

報告番号	甲 第 3225 号	氏 名	山本 和也
論文審査担当者	主査 関沢 明彦 副査 小風 暁 副査 渡井 有		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>母乳を介したヒトサイトメガロウイルス (CMV) 感染症対策として、パスツール低温殺菌処理が一般的であるが、実際に行える施設は限られる。電子レンジ処理により CMV の感染性が失われることを先行研究で明らかにしてきたが、今回、その電子レンジ処理により母乳中の成分がどのように変化するかを検討した。</p> <p>妊娠 37～40 週で出産した健康な正期産児の母親 9 人から産後 3～9 か月に母乳の提供を受けて検討した。サンプルを未殺菌、電子レンジ処理、パスツール低温殺菌処理に分け、各処理における母乳中分泌型 IgA、ラクトフェリン、TGF-<math>\beta</math> 2、遊離脂肪酸、リゾチームを測定した。</p> <p>その結果、ラクトフェリン濃度は電子レンジ処理に比較してパスツール低温殺菌処理で有意に低下した。一方、電子レンジ処理は未処理と比較してすべての成分において濃度変化は確認できなかった。</p> <p>この結果は、母子感染予防を考慮した母乳の利用法に対して有益な新知見であり、学術上の価値があり、学位論文に値すると判定した。</p> <p>論文題名：電子レンジ処理による母乳の成分変化に関する検討</p> <p>掲載雑誌名：日本新生児成育医学会学会誌 第 32 巻第 2 号 2020 年</p>			

(主査が記載、500 字以内)